

令和6年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	23	学 校 名	静岡県立掛川特別支援学校	校 長 名	赤澤 智子
------	----	-------	--------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア 専 門 性	（ア）学習指導要領を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」のある授業実践を通じた実践力と専門性のレベルアップ	・「日々の児童生徒の評価を記録し、必要に合わせて指導方法を工夫しながら、個別の指導計画の目標を適切な指導により達成できた」と答える教職員 100%	個別の指導計画の目標を適切な指導により達成できるようにしている。 94.2%	A	教員間で児童生徒の情報を共有し、授業のあらわれについての記録や話し合いを行い、個別の指導計画の目標向かって適切な指導ができた。
		・「主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善できた」と答える教職員 100%	話し合いや助言者、授業アドバイザー等からの助言を受け授業改善している。 95% 主体的・対話的で深い学びの視点で、授業改善している。 98.4%		グループ研修における授業研究では、協議の視点を絞って提示したりグループ編成を工夫したりすることで活発な話し合いができた。助言者から受けた助言を基に具体的に授業改善ができた。深い学びの姿について追及していく。
		・「児童生徒が ICT 機器を活用した」と答える教職員 100%	授業で児童生徒が ICT 機器を活用している。 90.1%		ICT 活用研修やミニ学習会で学んだことをいかし、授業で児童生徒が機器を活用する場が多く見られた。
	（イ）学校体制で取り組むカリキュラム・マネジメント 12 年間の年間指導計画と「いきいき学び地域と共によりよく生きる人」を育てる授業づくりの推進	・「12 年間の系統性や学習指導要領等の内容に沿って見直した年間指導計画が作成できた」と答える教職員 100%	12 年間の系統性や学習指導要領等の内容を見直した年間指導計画を作成している。 92.6%	A	音楽と体育については、12 年間の系統性ある全体計画資料を作成し、全職員に向けて活用の仕方や配慮事項をについて説明した。次年度以降、実際に活用しての改善点を修正して、本校の実態に合った資料としていく。また、図工・美術においても同様の資料を作成していきたい。
	（ウ）心理的安全性の確保と月 45 時間以内を目指した働き方改革の推進	・「働きがいとワークライフバランスの視点で業務改善できた」と答える教職員 90%	教職員一人一人が相手を思いやり、働き方改革の意識を持って業務や会議の効率化と精選を進めている。 86.1% 働きがいとワークバランスの視点で業務改善している。 86.9%	B	多様性を認め合う心情を呼びかけ、悩み事をすぐに伝えられる環境整備に取り組んだ。来年度は、心理的安全性の確保に向け、アンガーマネジメントやアサーションの研修に取り組む。 夢の実現委員会を 3 回実施。10 分間のスッキリタイムを導入し、机上と心の整理のための時間を設けた。

様式第3号

イ 安全・安心	(ア)児童生徒が安全に安心して生活できる教育環境の整備及び事故等の未然防止への行動力と有事への対応力の向上	・管理責任者による安全点検と美化活動の実施、危険個所の迅速な整備 100%	毎月点検を実施。計画的にスクールクリーンを実施。 98.3%	A	清掃用具の不足や破損への補充や交換による環境整備の実施。ごみの捨て方の周知徹底を継続する。
		・保健、医療的ケア、給食、体育等の重大事故発生0件 ・「ヒヤリハット等の情報を環境整備や再発防止に活用した」と答える教職員 100%	児童生徒の重大事故0件。 ヒヤリハットによる情報共有の実施。 96.7%		今後も、ヒヤリハットや事故を起こさないために、事前にできることを、保健給食課から発信していく。
		・マニュアルを教職員が理解し、「有事の際の動きが分かって行動できる」と答える教職員 100% ・不祥事根絶。情報機器紛失0件。個人情報紛失0件。交通加害事故0件。不適正会計処理0件。	災害、緊急搜索、不審者対応等の訓練を実施。 96.7% 情報機器紛失0件 個人情報紛失0件 交通加害事故1件 不適正会計処理0件		訓練を周知する際に、危機管理マニュアルを開き、確認する時間を設けた。また、訓練後に実際に即した内容に修正し、全職員に周知した。 不祥事根絶に向け、職員研修を実施。法令順守を徹底する。
	(イ)教職員、児童生徒の人権意識の向上と、他者も自分も大切にす心の醸成	・「教職員一人一人が人権に配慮した丁寧な態度や言葉遣いができた」と答える教職員 100%	人権教育の全体研修会と学部会を実施。月ごとの人権目標や振り返りシートを活用した。 89.4%	A	月初めに人権目標を周知。月末に該当学年が教職員や児童生徒の変容について話をする場を設け、全体で共有。今後も児童生徒への「さんづけ」を徹底する。講師を招聘して、教職員向けに道徳講演会を実施。発達段階に応じた人権教育、道徳をテーマにした公開授業を各学年1回以上実施している。
			発達段階に応じた人権教育、道徳教育を各授業や朝、帰りの会等で行っている。 95.9%		道徳教育や人権教育の指導に難しさを感じている教職員がいるため、実践に繋がる学習会や講演会を検討する。
		・「児童生徒が、あいさつやありがとうが自分から言えた」と答える教職員 100%	児童生徒は、あいさつや「ありがとう」が自分から言えている。 91.0%		
ウ 連携	(ア)よりよく生きる人を目指した学校と家庭、地域・関係機関等との協働強化	・「すまいるファイルを保護者や関係機関と共有し、面談や進路指導に活かせた」と答える教員 100%	すまいるファイルの意義や校内外の活用方法の周知 教員、保護者への説明。 94.2%	A	面談時に保護者が持参し、活用することができたが、学年が進むにつれ、中身が増えるので整理が必要。継続して活用を推進する。
		・ニーズに応じた関係者会議や学習会を設定したり、情報共有したりして、「必要に応じて保護者や関係機関と連携して取り組んだ」と答える教職員 90%	ニーズに応じて関係者会議を設定したり情報共有したりして、保護者や関係諸機関と連携している。 98.4%		支援会議5回(3名)、関係者会議8回(8名)実施。今後の支援の方向性について検討、共有、情報共有等することができた。また、中遠地区特別支援学特別支援教育コーディネータ研修会を実施し、対応力向上に努めた。

様式第3号

		・校内の専門家（看護師、SC）や校外の専門家（PT、OT、学校医、医ケア指導医相談員等）の活用が「有効であった」と答える教員の評価 90%	栄養教諭や養護教諭が授業に加わるなどし、専門家による指導助言を支援に活かしている。 96.7%		栄養教諭、養護教諭とタイアップしたことで、食や健康への関心を深められた。今後も実践を継続し、掲示板などで周知していく。
		・「学校公開やHP等で学校の様子が理解できた」と答える保護者 100%	保護者や外部の方が学校の様子を理解できるように、ホームページやcoccoo配信等を活用している。 96.7%		学部内で担当を決めて記事の依頼をし、計画的に更新できた。取り組みを継続する。
	（イ） 地域資源（人・もの・こと）への深い理解とそれを活かした実践や発信	・「ふれあい活動を実施し、地域資源（人・もの・こと）を利用できた」と答える教職員 100%	『ふれ活』を実施し、地域資源（人・もの・こと）を利用している。 98.4%	A	「ふれ活」では、例年の活動に加え地域のCS Co.と連携し、新規で地域人材の活用、実施をすることができた。
		・地域の方々に向けた作品展や日頃の学習活動を公開して、「児童生徒の理解啓発につながった」と答える教職員・外部評価 100%	地域の方々に向けた居住地域での作品展や日頃の学習活動の公開などを通して、児童生徒の理解啓発につなげている。 95.9%		地域の図書館で作品の展示を実施。全国展、手足の不自由なこどもの絵画写真展にも出品し、広く地域の人達にも本校の生徒の作品や学校のことを周知できた。
		・実施後アンケートで「相互に有効な交流活動であった」と答える本校、相手校の評価 100%	学校間交流や、交流籍校の相手校と連携を図り、相互に有効な交流及び共同学習を行っている。 95.9%		市のCo研修で交流学习の意義やねらい等小中学校への理解啓発を行えた。理解啓発を今後も継続する。職員への周知についても、足りなかった部分があった。学部や職員会議でのミニ学習会で行う等、工夫していきたい。